

合併でタイ国に工場

海外戦略の一環として、昭和四十八年（一九七三）タイ国のセリワタナ社と合併で「チーナガスケツト株式会社」を設立し、工場をバンコク郊外のミンプリ町に建設、五十年（一九七五）から製造を開始した。

セリワタナ社はセリワタナ・インダストリーを母体にしたタイ国有数の自動車部品商社であり、当社とは十年來の取引関係で、当社の輸出のなかで一番のお得意先でもあった。

合併の意向を打診したのは、それより三年前の昭和四十七年（一九七二）である。そのころ「タイ国で生産が始まる自動車部品は輸入が禁止される」という、うわさが高まった。そうなれば大きな輸出先を失うことになる。折から同じような事情で、日本の同業がタイ国へ進出する計画があるという情報も流れてきた。

そこで、当社も企業防衛の立場からタイ国へ進出する意思を固めた。しかし、当社だけの都合ではなく、同じ進出するなら、国際的な視野に立って、タイ国の国策に協力、現地に新しい企業を興すべきである。つまり、国際協力するのが望ましいという結論に達し、セリワタナ社との合併が持ち上がった。これを受けたセリワタナ社も非常に乗り気で、以後トントン調子に話がまとまった。

これにより昭和四十八年六月二十九日、石川勝四郎社長がタイ国に向いて、基本契約の締結調印と、同年七月五日新会社設立登記手続きを完了した。

